

## 新技術の活用等について（トンネル編）

神奈川県道路施設長寿命化計画の「Ⅰ 基本事項編」及び「Ⅲ トンネル・洞門編」に基づき、新技術の活用等について検討します。

### 4. 4 新技術の活用等

道路施設の点検や修繕等の実施にあたっては、国土交通省の点検支援技術性能カタログ（案）や新技術情報提供システム（NETIS）などを参考に、新技術等の活用を検討し、コスト縮減や事業の効率化等を図ります。

また、道路施設の点検結果や利用状況などを踏まえ、必要に応じて施設の集約化・撤去を検討し、維持管理のコスト縮減を図ります。

神奈川県道路施設長寿命化計画「Ⅰ 基本事項編（Ⅰ-15）」より

- 令和8年度までに、管理するトンネル・洞門のうち10箇所では新技術を活用し、従来技術を活用した場合と比較して約10百万円のコスト縮減を目指します。
- 管理するトンネル・洞門について、いずれもその地域の主要な幹線を担う道路の施設であり、集約化・撤去が可能なものはないが、利用状況の変化などを見ながら、必要に応じて施設の集約化・撤去の検討を進める。

※ 協定に基づき他の地方公共団体（道路管理者）が点検及び対策を実施するトンネル・洞門も、本計画の対象としています。